

平成25年度 西陵中学校についてのアンケート結果 分析と今後の方針

アンケート実施時期:平成25年12月初旬

1 教育目標実現に向けた努力
保護者の8割強から「全体的に見て満足のできる状態である」との評価をいただいています。生徒については9割以上の生徒が肯定的に受け止めてくれています。今後も評価をもとに学校づくりビジョンの見直しや実現に向けた努力を引き続き行い、様々な機会を通して取り組みの成果を生徒、保護者へともにわかりやすく伝えていくようにします。
2 充実した学校生活
9割以上の生徒が学校生活を楽しんでいると感じており、多くの生徒が学校生活に満足していると言えます。また、保護者からも9割弱と同程度の割合で肯定的な評価をいただきました。定期的な教育相談や日常の取り組み、スクールカウンセラーとの連携を適切かつ迅速に行い、課題の解決に取り組んでいる結果とも言えます。しかし、少数ですが「学校生活が楽しいと思えない」と答える生徒が存在するの事実です。教育相談の充実とともに、生徒の視点や立場に立った仲間づくりとしっかりと取り組み、一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう改善を図っていきます。
3 わかる授業
9割以上の生徒が、「先生たちは、授業をていねいにわかりやすく教えてくれる」と答えています。また、教師も全員がICTを活用した「授業改善・工夫を行っている」と回答しています。校内研修の充実や教師全員が相互に授業公開を行う取り組みの成果の現れとも言えます。しかし、授業がわかりにくいと回答している生徒がいるのも事実であり、このことをしっかりと受け止め、授業の見直しや改善、生徒の家庭学習の充実を図りながら理解と定着に向けて取り組みをさらに進めていきます。教師全員がわかる授業の実践を目指しこれからも努力していく所存です。
4 適切な評価
生徒の約9割が肯定的な評価をしています。シラバス(学習計画書)の見直し、配布、そして指導にあたって適切な評価を心がけた結果とも言えます。ただ生徒の1割と保護者においては3割弱が否定的な回答をしていることを受け止め、今後も教師自身が適切な評価について見直しを図ることで生徒や保護者に理解を求め、その評価が次に活かされるよう努めていきたいと考えます。
5 キャリア教育の推進
生徒からは9割強、保護者からも8割強、肯定的な評価をいただきました。キャリア教育推進計画にもとづき、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、1年生から段階的・系統的に進めている成果の現れであるとも言えます。自分の生き方や自分の将来を考える上で、生徒が実感できる、有効な教育活動であったと言えます。今後も、計画の見直しと実践の積み上げを行い、生徒が自ら進路を考え、拓いていけるように充実を図っていきます。
6 道徳・人権教育の充実
生徒からは約9割、保護者からは8割弱の肯定的な評価をいただきました。四同研をはじめ各種研修会への職員の参加率の増加、地域と連携した取り組みの強化、そして特に学年集団の状況を踏まえての日常の指導や取り組みを行った成果ではないかと考えます。しかし、保護者からの約2割の否定的な評価も含め、道徳の時間をもとよりすべての領域、教育活動において人権教育の充実を図り、「いじめ」のない、仲間づくりに重点を置いた指導を心がけ、生徒や保護者にそのことが実感できるよう、対応していきたいと考えます。
7 仲間づくり
9割強の生徒は、学級の仲間や友達との関係がうまくいっていると回答しています。しかし、約2割の保護者からは「学校の努力が足りない」との意見をいただいています。今後も教育相談に力を入れるとともに、スクールカウンセラーや保護者との連携を強め、アドバイスや指導を行いながら、生徒が円滑な人間関係を築けるよう、改善や集団づくりを行っていきます。
8 危機管理体制
9割強の生徒、ほぼ9割の保護者が安全に学校生活を送れていると感じています。学校生活での安全はもちろん、学校外、登下校時の安全のため、教師による下校時の安全パトロールを定期的の実施しています。安全マナーが悪いとの指摘も多く、学校全体での指導もたびたび実施しました。また防災面においても今年度、防災マニュアルの見直しと作成、様々な角度からの避難訓練の実施と、3.11の教訓に基づき安全・安心な学校を目指し取り組んでいる毎日です。今後も生徒の安全意識を高め、安全確保のための体制作りをめざしていきたいと考えます。
9 生徒指導上の問題への対応
生徒指導については、問題の早期発見・早期解決をめざして共通認識を持って取り組むという原則のもと、全員が危機感を持って対応する、という思いで解決を図ってきました。しかし1割弱の保護者から不十分との回答をいただきました。今後はさらに危機管理意識を高く持ち、生徒が安心して学校生活を送れるように問題の早期発見・早期解決に努めるとともに、保護者との連携をとりながら、職員間の連絡を密にすることで組織的対応のできる体制づくりをめざします。
10 教育相談
毎学期の定期的な教育相談や生徒との日常的な関係づくりの中で、相談活動は定着してきています。年度当初、教育相談の意義について担当より話がなされ、職員全員が共通認識の下でこれまで積極的に取り組んできた成果であるように考えられます。又、担当より定期的に保護者に向け広報活動もなされスクールカウンセラーとの相談件数も増加しつつあります。今後も担任と保護者とカウンセラーとの連携を強化することで解決につながる相談活動の充実にも努めていきます。
11 部活動の充実
8割強の生徒は、「部活動は楽しく充実している。」と評価しています。普段の活動の様子からも、熱心に活動している姿が見られます。しかし、保護者の3割弱から「そうでない」と回答をいただきました。もっと取り組みを増やしてほしい、指導の充実を図ってほしい等の指摘もいただきました。これらの指摘に対して真摯に受け止め、再度全職員がその教育的意義を認識することで、今後指導に当たっていきたくと考えます。
12 保護者・地域との連携
8割強の保護者から肯定的な評価をいただいています。また、9割以上の生徒が、外部講師による学習活動が役に立つと感じています。教師以外の授業や学校外での活動を行ったり、保護者や地域の方に授業や行事を公開して生徒について話し合う機会を設けていることが評価されていると思います。今後さらに地域との連携を図っていく必要があります。
13 情報の発信・受信
生徒や学校の様子は、学年通信や学校通信、ホームページのお知らせボードなどに掲載するとともに、学校ホームページの更新により、学校全体として情報提供に取り組んできました。その結果、約8割の保護者から肯定的な評価をいただく事ができました。今後も情報内容の充実とタイムリーな発行・発信、また生徒への学年通信等による働きかけを行い、学校と家庭・地域がつながる取り組み、努力を行っていきます。